

広江 貴美子 (松江市立病院 中央検査科)

受賞論文：視覚的評価による左室駆出率の信頼性と有用性：再現性及びModified Simpson 法との比較 J Med Ultrasonics 2003; 30(5): J651_J661

松江市立病院では平成13年5月より院内に病児・病後児保育所を開設し、平成22年8月からは院内保育所を開設した。院内保育所は夜間保育も行われ、職員個々の勤務に応じて利用可能である。

私は、1994年より松江市立病院に勤務し、循環器内科の医師の指導のもと日常検査をよび研究活動・学会等の発表活動を行って来た。この間、私の子供は、食物・運動起因性のアナフィラキシーショックがあり救急外来に受診することが度々であったが、小児科の医師に迅速な対応をして頂き業務の継続が可能であった。また、義母は透析が必要となり、義父は脳梗塞の後遺症のため介護が必要となったが、上司の理解を得て職務継続と研究活動・学会発表を継続でき、義父母も看取ることができた。育児制度・介護制度の確立されていない時期に循環器内科をはじめとする職場の臨床医の理解と多大な協力・励ましにより職務を継続することができた。超音波検査士として臨床医に心エコー図検査が必要され、育児・介護を理解し、多大な支援を頂いた。現在も継続して多大な人的支援を受け臨床業務および研究・学会発表を継続中である。

【受賞論文要旨】

視覚的左室駆出率(Visual EF) の信頼性と有用性の検討を行った。

Visual EF は、心エコー図検査に経験を積んだ検者が行えば、再現性が良好でSimpson EF と良く一致する方法で、局所的壁運動異常の有無にかかわらず評価できる方法であり、また、携帯型装置での検査時においても適用できる有用な方法と考えられた。